

授業科目名	地域情報論	担当教員	藤本 悠
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年 第3クォーター		
講義内容	<p>本授業は「データからは見えてこない地域の実像」について学ぶことを目的とする授業であり、様々な情報資源や現地調査などから地域の姿のあり方について学ぶ。</p> <p>近年はデータサイエンスの重要性は高まっており、機械学習に関しては様々な分野において非常に高い期待がある。しかしながら、そうした技術を盲目的に頼ることは極めて危険である。</p> <p>実際に、ミクロな視点で地域に目を向けると、データからは見えてこない面も多い。地域住民の心情的な側面や歴史の中で蓄積されてきた地域文化などへの理解を深め、地域情報を適切に扱う上で不可欠な感覚を醸成する。</p> <p>本授業においては各回ごとに問題を提起した上で、授業の前半にはグループ・ディスカッションを通して与えられたテーマについて議論し、授業の後半にはグループ・ディスカッションの内容も踏まえた上で講義形式の座学を行う。</p>		
到達目標	<p>本授業を通してはグローバル・パーソンとしてグローバルな視点での問題意識をもってローカルな地域課題を解決するための資質を身につけるために、以下の知識および基本技能を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル・パーソンとしての資質 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 地域活性あるいは地域創生の意義について述べることができる</li> <li>◦ グローバルな論点とローカルな論点との「差」を理解することができる</li> <li>◦ 地域情報を活かしたビジネス・チャンスの可能性を考えることができる</li> </ul> </li> <li>・ データサイエンティストとしての資質 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 既存の統計データからは見えてこない事実を想定することができる</li> <li>◦ 地域住民の目線を踏まえた上で意思決定支援を行うことができる</li> <li>◦ 自分の意見を指示するデータを収集して示すことができる</li> </ul> </li> </ul>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「地域」について理解する</li> <li>2. 「情報」について理解する</li> <li>3. 各省庁から発行された「白書」得られる情報とは？</li> <li>4. 「市町村史」から得られる情報とは？</li> <li>5. 自治体が発行する報告書や条例から得られる情報とは？</li> <li>6. 各種統計データから見えてくる「地域の姿」とは？</li> <li>7. 現地調査①：スマートフォンを使った情報収集の方法</li> <li>8. 現地調査②：現地調査における観察視点</li> <li>9. 現地調査③：聞き取り調査とアンケート調査</li> <li>10. SDGs を通して、地域課題を考える</li> <li>11. 様々な情報を通じて地域課題の解決方法を考える</li> <li>12. 「地域情報」とは何か？</li> </ol>		

事前・事後 学習	本授業では地域が抱える様々な課題を多角的な視野でとらえ、自分の考えを「客観的」に伝えることを重視する。そのため、事後学習ではレポートを通して授業の内容に沿ったデータを自らの力で収集し、加工し、可視化すること。
テキスト	特に指定しない
参考文献	適宜紹介する
成績評価 の基準	本授業においては地域調査レポートによって成績評価を行う。なお、評価方法についてはルーブリックを用いる。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	ICT の流行は非常に速いスピードで変化するため、シラバスの内容に関わらず、旬となる情報については積極的に取り入れるので、授業内容の順番や内容そのものが変更となる可能性がある。  定員 50 名オーバーの際には、抽選を実施する。なお、4 年次生のみ、優先的に履修登録を認める。